

スタジアムにおける施設満足度に関する研究ーメディア関係者に着目して

Research on facility satisfaction of sports stadiums - Taking the case of mass media

1K05B001

指導教員

主査 間野義之先生

阿内 秀人

副査 横山文人先生

1、背景

現代では技術の進歩、メディアの多様化により、人々とメディアとの関係も変化し、メディアが単にスポーツ情報の供給者としてだけでなく、様々な影響を与えるようになってきている。

メディアの役割が大きくなっていく現代ではメディア自身にその責務を全うする自覚が必要であるが、自らが発信する情報に対して鋭い感覚を持ち、より情報を公正・公平に発信するためにはメディアを取り巻く情報インフラ、施設などのメディア環境も整備する必要があると考える。

岸田ら(2007)によれば、知的生産活動における社会的環境と物理的環境の枠組みの中で、仕事場における室内印象・環境などの建築空間は思考活動や行動様式に対して間接的に有効性が認められ、知的生産性に寄与するとされる。したがって、メディアを取り巻く取材環境を整備することで、メディア関係者の知的生産性を向上することができる。

2、研究目的

本研究ではメディア関係者に焦点を当て、A スタジアムにおけるメディア関係者の利用に関する調査を通し、スタジアムの環境への満足度、重要度等を把握すると共に 2006 年度、2008 年度の調査結果を比較し、A スタジアムがさらに取り組むべき課題を明らかにする。

3、研究方法

- 調査概要 A スタジアムで実施された J リーグの試合に来場した、メディア関係者を対象に

2006 年 10 月 21 日(土)(J リーグ第 12 節)、2008 年 11 月 9 日(土)(J リーグ第 31 節)に配表自記式質問紙法で実施した。

- 分析方法 2006 年、2008 年の調査結果を集計し、「属性」、「各評価項目の重要度」、「特に重要な項目」、「各評価項目の満足度」、「重要度・満足度の平均値の分布(I/P 分析)」を見る。また「各評価項目の重要度」、「各評価項目の満足度」について t 検定を行う。

4、結果

- 各評価項目の重要度 どちらの調査でも重要度の平均値が高かった項目として「記者席の位置」等の三項目がある。また、「通路から記者席への入りやすさ」、「記者控室の清潔さ」、スタジアム職員の対応の適切さ」の三項目において 5%水準で有意差が見られた。
- 各評価項目の満足度 2006 年調査、2008 年調査ともに満足度が高かった項目に「記者控室の清潔さ」、「記者会見場の広さ」、「記者会見場の清潔さ」がある。「記者席の位置」等の 7 項目において 5%水準で、「プレス導線の使いやすさ」においては 1%水準で有意差が見られた。
- 重要度・満足度の平均値の分布 「記者席からピッチまでの距離」等の四項目においては 2006 年、2008 年ともに取り組み課題として挙げられる。

5、考察

清潔さや禁煙、スタジアム職員の対応に対する満足度は高いものの、実際にはそれほど重要度は高くなく、取材に差し支えない程度であれば問題はないといった認識であると考えられる。メディア関係者の来場理由である取材という観点で考えれば、あまり重要とは考えられない。よって、より記者席の位置や角度等に注力し、メディア関係者がより取材しやすい環境をつくることが早急に求められていると言えるだろう。

6、結論

よりメディアの公平性、公共性を保つためには、それぞれの調査項目に対する満足度をより向上

させていかななくてはならないと考える。また、他のスタジアムのメディア環境を研究し、近い取材環境を構築することでメディア関係者の不満が取り除かれていくことがあるかもしれない。メディア関係者がメディア環境の印象を決定する要素には記者席の位置やピッチとの角度、照明や情報インフラ等様々な要素があるが、現在ではスタジアムごとにバラバラであり、画一化することは難しい。しかし今回の調査で判明した「メディア関係者が記者席から見る、感じることに焦点をあて、改善していくことが満足度を向上させるなによりの近道である」と考える。